

## 第5回定時株主総会 事前質問へのご回答

2026年6月23日(火)に開催いたしました第5回定時株主総会に際し、株主の皆様より質問受付専用サイトを通じてお寄せいただきました事前のご質問について、以下の通りご回答申し上げます。なお、ご質問につきましては、趣旨を損なわない範囲で要約・編集しております。

### **1. 熊本県八代市にて発生した当社子会社である前田建設における贈収賄事件についての会社の責任等について**

(回答)

本件につきまして、株主の皆様には多大なご心配とご迷惑をおかけしておりますこと、深くお詫び申し上げます。

本件につきましては、2025年10月の報道において、前田建設が2019年に受注した八代市新庁舎建設工事に関する、官製談合の疑いが報じられました。

当社及び前田建設は、不正の疑いが生じたことを非常に重く受け止め、直ちに外部の弁護士による特別調査を開始し、本年1月には調査結果を受け、捜査機関への自主申告を行い、捜査に全面協力をして参りました。

5月7日には、前田建設職員が八代市議会議員に対し不正に金銭の提供を行った疑いがある旨が報じられ、あっせん収賄の容疑で収賄側3名が逮捕されております。

当社グループ職員に、このような疑惑がかかること自体が非常に遺憾であり、今後このようなことが無いよう5月13日には再発防止検討委員会の設置を決定いたしました。

また、5月28日には逮捕された3名の内1名が起訴、6月18日には残りの2名についても起訴されましたが、現在も裁判が継続していることから、事実関係の詳細や再発防止の具体的な方向性についての回答は差し控えさせていただきます。

なお、当社グループ職員にこのような疑惑がかかったこと、及び、それに伴い少なからず混乱が生じたことを踏まえ、本件当時に前田建設の経営トップであった前田建設の社長が、報酬の一部を自主返上しております。当社としましては、今後全社を挙げて、このような事態を二度と発生させぬよう、グループ会社の内部統制の更なる強化を含め再発防止に取り組み、皆様の信頼を回復できるよう、今後も努めて参ります。

### **2. 風力発電事業に関し、固定価格買取制度、いわゆる FIT 終了に伴う業績への影響と今後の計画、及び再生可能エネルギー事業が抱える課題への考えについて**

(回答)

まず、FIT 終了に伴う業績への影響及び今後の計画につきまして、ご回答いたします。

再生エネルギー開発事業においては、FIT から FIP への制度移行により、発電事業者自らの売電力がより重要となる事業環境へと変化しております。このような状況の中、当社グループの日本風力開発では、従前より売電機能の強化を進めており、2026 年 4 月からは卸売に加えて小売電気事業を開始いたしました。今後はコーポレート PPA の活用等を通じ、再生エネルギーの価値最大化に取り組んで参ります。

また、FIT 終了後は一般的に売電単価の変動リスクが生じますが、卒 FIT 電源につきましては減価償却が概ね完了していることに加え、小売事業における自社活用も進めているため、収益の大幅な悪化リスクは限定的と認識しております。さらに、当社グループは、風力発電設備の運用・保守会社である、イオスエンジニアリング&サービスを有しており、長期運転に関するノウハウを自社で蓄積しております。これにより、卒 FIT 後においても、安全かつ安定的な運営を継続しながら、資産価値の維持・向上を図って参ります。

次に、再生可能エネルギー事業が抱える課題につきまして、風力発電につきましては、景観や自然環境への影響といった課題があることを認識しており、当社グループでは、環境影響評価の徹底や地域との対話を重視し、環境負荷の低減と地域との共存を前提とした開発を進めております。また、電気料金は、その他の物価と同様に上がってくると想定されますが、発電事業者にとっては売電価格の上昇を意味するため、収益面ではアップサイドになり得ると考えております。

再生可能エネルギーに対しては、様々なご意見がある中で、当社はエネルギーの安定供給・経済性・環境性のバランスを重視した事業運営が重要であると認識しております。

今後につきましては、当社が有する風力発電の O & M ノウハウを活かし、FIT 終了後の発電所も含め、長期安定運転を実現するとともに、既存設備の効率的な活用を通じて、持続可能な事業運営を推進して参ります。

### 3. 原油価格上昇、建設資材の高騰などによる土木・建築・舗装事業への影響について

(回答)

原油価格の上昇に伴い、燃料・アスファルト・塩ビパイプ等の化学二次製品・塗料・防水材等、幅広い資材の価格や供給に影響が出ておりますが、官庁工事ではインフレスライド条項、民間工事においても資材価格の変動に応じた請負代金の変更協議ができる契約条項を請負契約書に盛り込むことで、物価上昇の影響を吸収できるよう取り組んでおります。

また、設備、エレベーター、鉄骨といった協力業者との定期的な情報交換による施工体制の確保や早期の工事案件づくりこみ、前田建設と三井住友建設のグループ全体での購買量を背景とした調達などにより、原価上昇の業績影響を抑えております。

なお、舗装事業におきましては、タイムリーに販売価格への価格転嫁を行ったことから、現時点の業績は前年水準を確保できております。

#### 4. 当社のB.LEAGUE 参入に伴う反響等について

(回答)

B.LEAGUE 様とは、「スポーツとインフラを起点とした地域創生」をビジョンに掲げ、ファン、地域の方々との交流と接点強化に向けたイベントの開催など、活動を行って参りました。

このような活動を通じ、自治体・企業といった枠を超え、地域の方々との接点が拡大しており、当社の認知度向上や、当社が目指す総合インフラサービス企業への理解につながっております。

今後も事業を通じ、社会・地域の活性化に貢献できる取組みを進めて参ります。

#### 5. 日本風力開発が保有するドイツの風力発電所における採算性について

(回答)

海外の風車は、2001年に2基、2004年に2基の計4基の風力を開発し保有しておりますが、現在は保有しておりません。

#### 6. 前田建設と三井住友建設におけるミャンマー・ヤンゴン事務所の事業継続方針及びリスク管理について

(回答)

前田建設におけるヤンゴン出張所は、現在、最小限の体制にて維持しております。当該拠点の位置づけは、積極的な事業展開ではなく、限定的な機能の保持にとどまるものであり、将来的な日本のODA案件再開への対応余地の確保や、撤退・再進出に伴うコストとの比較における経済合理性を踏まえたものです。安全及び法令遵守を前提とし、現地情勢を踏まえた機動的な見直しを行っております。

三井住友建設におけるヤンゴン事務所は、現在、手持ち工事はございません。日本へ預金残高の送金が完了次第、閉鎖を予定しておりますが、現時点では現地の外貨事情等の影響により、送金が制約を受けている状況が続いております。

#### 7. 建設業界における人手不足問題に対する前田建設の世代間技術継承の取組み、及びストック型ビジネスの長期的展望について

(回答)

前田建設における人材確保及び技術継承の取組みにつきましては、協力会社の技能者支援を目的として、大学と連携した多様な建設技術の基礎及び応用の学習機会を提供するなど、「ものづくり」の担い手育成に取り組んでおります。また、外国人技能者の長期就労を見据え、特定技能2号の取得に向けた支援も実施しております。

また、社内においては、新入社員から若手・中堅社員まで、各成長段階に応じて技術・安全・品質・マネジメントに関する研修を実施し、これまで培ってきた技術やノウハウの継承

に努めております。加えて、上司のマネジメント力向上にも注力しており、若手職員とのコミュニケーションや適切な業務配分など、多様な価値観への対応や世代間ギャップの解消に向けた教育を行っております。

次に、ストック型ビジネスにつきましては、主にインフラ運営事業を指すものとしてご回答いたします。将来的な展望として、2030年度の事業利益1,300億円のうち、インフラ運営事業で4割程度を創出することを目指しております。

前田建設におけるコンセッション事業や系統用蓄電池事業、日本風力開発における風力発電所の開発を進めるとともに、本年7月よりグループに加わった水ingも含めて、グループ全体での成長を目指して参ります。

## 8. 水インフラ事業（水ing）の今後の成長戦略及び海外展開方針について

（回答）

水ingにつきましては、現時点においても安定的に収益を確保し、着実な成長を遂げている会社であると認識しており、現段階において大幅な事業体制の見直しは想定しておりません。一方、政府が推進し、今後の成長が期待されるウォーターPPP分野については、当社としても注力すべき重要な成長領域であると認識しております。水ingにおきましても、当該分野での成長を目指すため、当社より取締役を派遣いたします。

また、海外展開につきましては、水ingは過去に海外事業の実績を有しております。今後は、その知見に加え、三井住友建設の海外ネットワーク等を活用しながら、事業機会の創出に向けた検討を進めて参ります。

## 9. 風力発電・蓄電池事業におけるJC-STARへの対応及び系統連系等の事業環境変化への対応について

（回答）

蓄電池事業におきましては、JC-STAR制度については認証取得済みのメーカーとの取引を前提として開発を進めております。

また、系統連系に関しましては、現在検討中及び開発中の案件において、概ね連系枠を確保しており、現時点での影響は限定的であると認識しております。加えて、市場環境や制度設計を踏まえ、開発期限を設定した案件開発を行っており、系統連系に係る制約の影響を大きく受けるような新規案件の開発は、現状において想定しておりません。

風力事業におきましては、取引先である風車メーカーに対しJC-STAR制度への対応方針の確認を進めておりますが、現時点では、各社とも基本的に同制度へ対応する方針であることを確認しており、事業推進上の大きな支障は生じないものと認識しております。

また、系統連系につきましては、系統の空き容量や将来の整備計画等を踏まえた上で、適切に事業計画へ反映して参ります。さらに、出力抑制の影響については、FIT制度を活用している既存発電所の一部を、より影響の小さいFIP制度へ移行するなど、影響低減に向け

た取り組みを推進して参ります。

**10. 当社子会社におけるマンション大規模修繕事業に関する独占禁止法関連事案への対応及び当社グループへの影響について**

(回答)

三井住友建設グループの SMCR が、関東地区所在のマンションにおける大規模修繕工事の受注に関し、立入検査を受けたことは事実でございます。株主の皆様にはご心配をおかけしておりますことを、深くお詫び申し上げます。

SMCR におきましては、本件を真摯に受け止め、公正取引委員会による調査に全面的に協力しております。もっとも、現在も当局による手続が継続している状況にあるため、詳細につきましては回答を差し控えさせていただきます。また、課徴金に関するご質問につきましても、当局の調査に関する事項であることから、現時点でのコメントは差し控えさせていただきます。

グループ会社において、株主の皆様にご心配をおかけする事態となっておりますことにつきましても、当社としても重く受け止めており、誠に遺憾に存じております。今後、このような事態により信頼を損なうことのないよう、適切な対応に努めて参ります。

**11. 日本風力開発が保有するブレードトレーニングセンター (BTC) の事業計画及び GWO 認証取得の進捗について**

(回答)

石川県珠洲市のブレードトレーニングセンターは、2026 年 6 月に建屋の引き渡し完了した段階であり、今後各種準備を進めた後に、年内を目標として GWO の認証取得を進めて参ります。

事業としては、本トレーニングセンターで、ブレード補修の人材育成を行い、ブレード修繕の受注拡大を図って参ります。

**12. 建築事業における設備会社との連携強化と取締役選任の狙いについて**

(回答)

当社の社外取締役、設備会社(高砂熱学工業株)の社外取締役に就任している者がありますが、当該設備会社との関係につきましては、建設業界における一般的な取引関係と同様、多くの協力会社の一つとして公正な関係を維持しております。競業に関する懸念につきましても、就任前に厳格な審査を実施し、法令及び社内規程に基づき、利益相反を適切に管理・排除する体制を整えております。

当該取締役は、当該設備会社における社外取締役に兼職しておりますが、独立した立場から当社の経営を客観的に監督する役割を担っており、両社における個別の業務執行には関与していません。また、特定の企業との取引拡大等を目的とした人選ではございません。

同氏の有する幅広い知見と専門性を活かし、当社の経営全般に対して客観的かつ俯瞰的な視点から助言を得ることで、ガバナンスの更なる強化につなげて参ります。今後も透明性の高い経営を維持し、株主の皆様の信頼にお応えして参ります。

### **13. 有料道路事業における株主優待制度の導入について**

(回答)

この度ご提案いただきました、当社グループが運営する有料道路における株主優待（お試し券等）の導入につきましては、貴重なご意見として承りました。

当社といたしましては、株主の皆様への還元につきましては、配当等による利益還元及び企業価値・株式価値の向上を通じてお応えすることが重要であると考えております。

現時点におきましては、株主優待制度の導入の予定はございませんが、今後の株主還元施策の検討にあたり参考とさせていただきます。

### **14. 蓄電池事業の進捗状況と中期経営計画目標の達成見通しについて**

(回答)

現時点において、2027年度中に稼働予定の案件は計40件超（いずれも高圧2MW規模）を見込んでおり、中期経営計画に沿って開発を推進しております。

また、中期経営計画策定時には、開発した蓄電池案件の事業譲渡を選択肢として想定しておりましたが、足元の事業環境を踏まえ、現時点では事業譲渡よりも保有・運営を継続する方が、中長期的な収益の最大化に資するとの判断に至っております。

以上